

2018.05.29

会員の皆様、こんにちは。

先日、友人の子どもがお出かけ用に持っていた『かちかち山』を見せてもらいました。子どもたちに読み聞かせとして使われる多くの本は、流行り廃りが少なく何十年も変わらないのですね。大人になった今読み返すと、懐かしくもあり、こんな残酷な話だったの！？等々、意外な発見もあるものです。

本日は、『幼児や小学生に対する読み聞かせと教育』がテーマです。ベビーカーに乗りながら、スマートフォンで、動画やアニメを見ている子どもを時折見かけますが、本の読み聞かせも忘れ去られないでほしいものです。

石田まさひろ政策研究会

幼児や小学生に対する読み聞かせと教育

■ 読み聞かせとは

みなさんは、「読み聞かせ」という言葉をお聞きになられたことがおありでしょうか。読み聞かせとは、ご家庭内をはじめ、幼稚園、小学校、自治体等で、家族やボランティアの方などが、子供に絵本などを見せながら音読し、子供とのコミュニケーションをとる取り組みです（もっと言うと、昔あった「紙芝居」なども読み聞かせの一種と言えるかもしれません）。

■ 読み聞かせの効果

英語の”mother tongue”（直訳：母の舌→母国語）という言葉が物語っている様に、生まれた子供が言葉を覚えるのは、お母さんをはじめとする周囲の大人や様々な人々からです。言葉を覚えることは子供の脳の発達に大きく影響を及ぼすこととなりますが、のみならず、乳幼児期に絵本などを大人から読み聞かせてもらうことで、子供達

は、情操面や、想像力の発達面で、大きく成長していくことができるのです。

平成16年度に文部科学省が行った委託調査「親と子の読書活動等に関する調査」のアンケートによると、家庭での読み聞かせの効果について、「中2の次男には、小さい時あまり読み聞かせをしなかったのですが、長男には毎日していました。あとになるとその差が歴然と現れました」、「小さい頃の読み聞かせは、とても大切だと思います。字が読めるようになると、すすんで自分でも読むようになっていく様です」、「読書によって自分の気持ち等がはっきり言えるようになり、表現力がゆたかになりました」などの声が寄せられています。



また、平成 28 年度に徳島大学の森健治教授他が行った研究でも、絵本の読み聞かせの聴取時に、「快感情が起こり、リラックスした状態が誘発された」ことが推察されています。

■ ICT の発展と原体験の重要性

昨今のめざましい ICT (情報通信技術) の発展により、私達はパソコンやタブレット端末などを通して、人間の肉声に近い音声による文章の音読を享受できるようになっています。もし、それによって私達が情報を受け取るという理性の面だけでなく心が満たされる思いがするとすれば、それは音声や文章の向こう側にある誰かが自分に向けて語りかけてくれるという認識によるものではないでしょうか。そしてこのことには、私達がこの世に誕生して以降、誰かから心（愛情）を伴った語りかけを受けた原体験に基づく面も少なからずあるのではないかと思います。

■ 幼児教育の大切さ

「三つ子の魂百まで」ということわざがありますが、1960 年代にアメリカのミシガン州で、教育上リスクが高いと判定された子供を対象に、一部に質の高い教育を施し、その後約 40 年間にわたり行った追跡調査（「ペリー就学前計画」）によると、幼児期の教育が将来の所得の向上や、犯罪率の低下などにつながる結果が示されています。

目下、安倍政権は幼児教育の無償化を掲げていますが、未来を担う子供達が周囲や大人から心と知性の両面で愛情をもって育てられていくことで、その後の人生において豊かに成長し、ひいては我が国の発展にもつながるものと期待できるのではないのでしょうか。



著者： KOTORI